

令和元年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果の分析について

令和元年4月実施
小城市立三日月中学校

【教科】1学年の結果分析

	分析結果と課題	改善に向けた今後の取組
国語	<p>全体での正答率は、県の正答率をやや上回っている。「知識・理解・技能」は県平均よりやや下回っているものの、到達基準の「おおむね達成」では「話す・聞く」「書く」「読む」の3観点で達成している。</p> <p>観点別にみると、「書く」領域の中で、「町の人の声の中から一つ選んで」や「2文で」という条件に合わせて文章を書くことができていない。また、「知識・理解・技能」の中で、漢字の読み、書きや主語を探す問題、敬語に直す問題の正答率が低かった。特に、漢字の書き取りは無答率も高く、漢字の練習が定着できていないといえる。</p>	<p>語彙力が身につけていないことが、漢字の読み・書きや条件に合わせて文章を書いたり、書き換えたりすることにもつながっていると考えられる。</p> <p>そこで、これまで以上に、朝読書を徹底し、読む本についても助言をしていきたい。また、漢字ノートの提出を徹底させ、練習の効果が上がるように、手本を使って書かせたい。文法については、既習の内容を時々復習し、定着させるようにしていきたい。</p> <p>「書く」領域は、県平均を上回っているとはいえ、全体的にみると書く力が身につけているとは言えないので、授業の中で、条件を入れて書く活動を取り入れ、グループで読みあったり、アドバイスをしたりすることでいろいろな文章に触れていくようにしたい。</p>
数学	<p>本校の正答率は県の正答率を上回っている。観点別、内容・領域別正答率もすべて県の正答率を上回っている。</p> <p>縮図の問題、道のり・速さ・時間の問題、組み合わせの問題では、県より無解答率が高く、分からない問題を粘り強く考えることができない生徒がいる。また、解答を記述する問題では、無解答率が県よりやや高く、活用力を問われる問題や、説明をする問題に苦手意識があると考えられる。</p>	<p>「知識・理解」と「技能」に関しては、授業ごとの小テストや週末課題を通して、力を定着させたい。特に、家庭で復習ができるように、家庭学習の取り組み方の指導を適宜行いたい。</p> <p>「考え方」に関しては、授業の中で、話し合う活動の時間を多く確保したい。その時間に、考えを深めさせたり、友達に説明をさせたりすることで、力を付けさせたい。</p>

【意識調査】1学年の結果分析

	分析結果と課題	改善に向けた今後の取組
長所	<p>○文字に親しむ習慣</p> <p>文字に親しむことに関しては、週に1回以上図書館に行く生徒が県平均より高く、読書習慣は確実に付いている。</p> <p>国語の授業で、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている生徒が県平均より高い。</p> <p>○一定の学習時間の確保</p> <p>平日は3時間以上の学習時間が県平均より、やや高い。また、4月の調査と比べて2時間以上の学習時間が、6月の校内調査時には高くなっていた。</p> <p>また、土日の学習時間も県平均よりも高いポイントである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の更なる徹底と、学力向上支援委員の話にもあるように、読書の大切さを家庭にも啓発していく。 全教科、継続して話し合い活動や学び合い活動を行い、読み書きの取り組みを充実していく。 <p>・4月の調査と6月校内調査を比較しても、しっかりと家庭学習を行っている生徒が多い。家庭学習の大切さを意識していると考えられる。保護者の協力も大きく、課題提出へ関心も高い。自主学習の取り組みも意欲的に行っているため、継続させたい。</p>

<p>短 所</p>	<p>家庭学習においては県平均を上回っているが、塾等で学習している生徒は少ない。復習中心の学習であり、予習になると県平均をやや下回っている。特に、定期テストの復習（やり直し）にかける時間が少なくなっている傾向がある。</p> <p>自分の考えを友達の前で発表することを得意とする生徒がやや低い。社会科の学習に対して苦手意識があり、学び合いや調べ学習などの活動で何を学ぶのか理解できない生徒がいて、確かな手応えを感じることができない傾向が多少見られる。</p> <p>読書では、教室や図書館等、学校で読書をするが、家庭での読書に充てる時間は少ない。テレビやビデオの視聴が2～3時間になる生徒の割合が多い。</p> <p>就寝10時以降の生徒の割合が多くなっている。</p> <p>地域の行事に参加する生徒が少ない。</p>	<p>家庭学習が反映できるように、授業の中で意見の交換や発表を促すように働きかける。</p> <p>定期テスト後には、やり直し課題を配布し、基礎学力の定着を図る。</p> <p>授業の中で、めあてや学習の流れ、身につけさせたい力などを丁寧に示し、何を学ぶのか理解させたい。意見交換の場を増やし、グループリーダーを育てることで学び合いの活性化に努めたい。</p> <p>自学ノートには、毎回めあてを決めて書かせる。</p> <p>携帯電話・メールなどについては、「三日月ルール」が定着しているので、ゲームやテレビ視聴についても、ルールを決めて生徒だけでなく保護者にも協力を仰ぎたい。</p> <p>部活動と調整しながら、地域や子ども会行事、ボランティアなどにも参加するように呼びかける。</p>
----------------	--	--

【教科】2学年の結果分析

	分析結果と課題	改善に向けた今後の取組
<p>国 語</p>	<p>全体での正答率は、県の正答率をやや下回っている。到達基準のおおむね達成も、下回っている状況にある。</p> <p>観点別では、「話す・聞く」がやや上回っており、「読む」「書く」「知識・理解・技能」が下回っている。「話す・聞く」領域の中では、その場にふさわしい言葉遣いで話したり相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめたりすることができていない。「書く」領域の中では、目的に応じて材料を取捨選択して書くことができていない。また、「知識・理解・技能」の中で、漢字の書き（同音異義語）、日常使わないような漢字の読みの正答率が低く、無回答率が高かった。既習内容が十分に定着していないといえる。</p>	<p>語彙力の不足が「読む」「書く」ことに大きく影響しているので、単元の初めに辞書で意味を調べ、語句・語彙の量を増やしていきたい。同音、同訓の漢字が正しく使えるように意味調べとともに毎週の課題である漢字ノート提出の徹底を行う。</p> <p>類義語や対義語などを話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしていきたい。</p> <p>読むことへの抵抗をなくす別の手立てとして、現在行っている朝読書を継続するとともに、読書量を増やしたり朝読書で読むのに適した本の紹介をしたりする機会を作っていく。また、自分の考えを書かせたり他の人の考えを交流したりする機会を増やしていきたい。</p> <p>さらに、単元テストや小テストで定着度を確認し、生徒たちの「わかった感」を伸ばし、その後の学習につなげたい。</p>
<p>数 学</p>	<p>本校の正答率は、全体的に県の正答率を上回っている。しかし、内容・領域別にみると、「資料の活用」の単元で県の正答率をやや下回っている。特に、ある事गराを説明する活用問題は、正答率が半分以下となっている。同じように、方程式の活用問題でも正答率が半分以下となっている。また、「関数」の単元では到達基準より低い結果となっていることから、関数の知識や技能が定着していないことがわかる。</p>	<p>「資料の活用」の練習問題に取り組み、試験や小テストを行って知識の定着を図る。活用問題の正答率が低いことに対しては、理由や意見を答える問題を用意し、授業の中で問題演習を行う。また、週末課題で「比例・反比例」の復習を行い、関数の知識や技能を確実に身につけさせてから「一次関数」の学習に取り組む。</p>

【意識調査】 2学年の結果分析

	分析結果と課題	改善に向けた今後の取組
長所	ほとんどの生徒が目標や夢を持っていることが結果から分かった。学校が楽しく、中でも友達と会うことが励みとなっているようだ。授業に関しては、どの教科においても、めあてやねらいが毎日示されており、ふり返りもできていると認識している。発表は得意であると思っている生徒が多い。特に社会の授業が好きで意義を感じているという回答が多かった。また総合の授業は役に立つと思っている。学校外ではスマホのルールを守ろうとする意識が高い。また地域の行事には積極的に参加している。	今後も継続して、授業の見通しとふり返りを徹底していく。授業の中では生徒が自ら考え自信を持って発言できるような話し合い活動や学び合い活動を取り入れていく。社会だけでなく、生徒がどの教科にも興味をもって学習ができるような題材、教材、授業の内容の工夫に努め、学力の向上につなげていきたい。
短所	全体的に人の話が聞けない、共感できないという結果となった。授業中の話し合い活動に関する意識も低く、自分の考えを説明するのが苦手だと感じている生徒が多いことが分かった。 また、書くことにも苦手意識がある。人の意見を聞き、自分の考えを広げたり深めたりする活動がなかなかできていない現状がある。 教科の中では英語・国語・理科の苦手率が高かった。家庭学習においては、土日の家庭学習ができていない。テストの反省・やり直し・ふり返りが自分ではできていないという回答が目立った。 学年全体として、他の学年に比べてもスマホ所持率が高く、TV、DVD、ゲームに費やす時間が多い。そのため読書量がやはり少ないという結果となった。	授業の中で、話し合い活動や学び合い活動を多く取り入れることで、特に「聞き方」、「聞く姿勢」、「聞く力」の定着を図る。 課題は年間を通して、一定量出し取り組ませるようにする。内容についても教科ごとに厳選し、生徒が意欲をもって家庭学習ができるよう工夫をしていく。 学習会では国語も追加し、漢字や作文を書かせることで、書く力に加えて文章を速く書く力を身につけるような指導を行う。

【教科】 3学年の結果分析

	分析結果と課題	改善に向けた今後の取組
国語	領域別にみると、「書くこと」の分野が他の分野に比べて正答率が低い。他は、県平均と比べて同等である。 話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」という2項目で、無回答が一割を超えている。これが記述式の正答率の低さにつながっていると考えられる。 「文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつ」では、正答率が県平均より高い。根拠を明確にして書くのは苦手であるが、示されている考えに対して、例に倣って書く形式では書くことができる。 「封筒の書き方」では、封筒の表書きが無回答の生徒の割合が、県よりも高い。手紙の中身についてはお礼状書きなどで実践しているが、表書きは封書の手紙を出したことがない生徒が多いためだと考えられる。	○「書くこと」に関して主に改善をしていく。 授業の中で、自分の考えを述べたり話しあったりするだけでなく、書かせることを随時取り入れる。また、その際、根拠を必ず述べるように指導していく。 「書く」抵抗をなくさせるために、時間を指定して「書く」作業を取り入れる。 学校行事とリンクすることで、感想やお礼状など日常生活の中でなるべく書かせることを取り入れる。 封書などの実体験不足の部分は、知識としてあらためて授業中に触れるようにする。
数学	本校の正答率は、県の正答率と同じである。観点別にみると「技能」と「知識・理解」で県の正答率を上回っており、基本的な計算技能や数学的な知識は身につけているといえる。しかし、記述式の問題の正答率は、やや下回り、数学的な表現を用いて説明することができていない生徒が多い。また、無回答率が高かったことから、活用力を問われる問題に対しての苦手意識があると考えられる。	2年生までに学習した内容を振りかえる週末課題を引き続き行い、全領域での知識の定着と技能の向上をめざしていく。また、話し合い活動や学び合い活動を取り入れることで、相手の考えをじっくりと聞く力や、自分の考えをまとめ、伝える力を身につけさせる。

英語	<p>本校の正答率は県平均を上回ったが、全国平均を下回った。観点別に見ると「読むこと」「書くこと」に関する問題の正答率は県平均を上回り、「聞くこと」に関する問題の正答率は県平均を下回った。自分の意見を書く問題では、提示された2つのものを比較する問題の正答率は県・全国よりも高かったが、社会問題等の資料を読んで自分の考えを書く問題では県・全国を大きく下回り、自分の意見を論理的に説明することが苦手であると考えられる。</p>	<p>今年度全学年を通して始めた帯学習でのリスニングを継続して行っていく、「聞くこと」の力を付けていく。また、「読むこと」「書くこと」の活動の中で自分の考えを書いたり、友達に説明させる活動を積極的に取り入れていく。</p>
----	---	---

【意識調査】 3学年の結果分析

	分析結果と課題	改善に向けた今後の取組
長所	<ul style="list-style-type: none"> 朝食摂取は90.8%と良好である。 将来の夢やビジョンは明確な者が多い。 学校は楽しいと答える生徒の割合は全国・県ともに上回る。 いじめを認めない意識が非常に高い。 ICT利活用満足度が高い。 話し合い活動で学びの深まりを自認している生徒が33.6%と取り組みの効果が現れている。 	<p>話し合い活動での学びの深まりを感じることができ生徒の割合が更に増加するよう授業改善に努める。</p>
短所	<ul style="list-style-type: none"> 起床時間にばらつきがあり、休日の過ごし方に課題があることが明らかである。 平日家庭で全く学習をしない生徒が5.9%存在し、校内での二極化が今後課題となると考えられる。また、休日になると家庭で全く学習をしない生徒が9%まで増加する。 読書を全くしない生徒が41.2%と全国・県を大きく上回っており、図書室を6割の生徒が利用していない現状がある。 英語を嫌う生徒の風潮に流され、全体的に英語の学習への認識が甘い。教師の授業における取り組みは様々な活動において工夫がなされているが、英語の勉強は大切だと思う割合は全国を下回る。 	<p>休日の過ごし方に課題があることが明確になったので、学習習慣づくり部会で話し合い、具体的対応策を練る。8月27日の校内研修において協議し、2学期から何らかの取り組みができればと考える。</p> <p>朝読書以外に読書に取り組んだり、新聞を読んだりする生徒が非常に少ないので、読書の重要性を全校朝会や学級で読書と学力の関係を話すなどの取り組みを始めている。2学期の重点項目と位置づけ、変容を調査し、改善に取り組む。</p>